

土壤処理型除草剤

アイ.ピー.シー

クロロIPC「石原」

冬の畑作除草剤



スズメノテッポウ



スズメノカタビラ



ハコベ



特長

- 冬畠に発生が多いスズメノテッポウやスズメノカタビラ、ハコベなどの発生を抑えます。
- 雜草の発芽前から発生始期までの土壤処理で高い効果を示します。
- 秋から春にかけて、気温が $20^{\circ}\text{C}$ 以下の時期に高い効果を示します。

## ■適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		使用方法	本剤およびIPCを含む農薬の総使用回数
			薬量(mℓ)	希釈水量(l)		
たまねぎ	一年生雑草	定植活着後または中耕後 但し収穫30日前まで	200~300	70~100	全面土壤散布	2回以内
ほうれんそう		は種直後	100~200			
いちご		定植活着後 但し定植7日後まで	150~200		株間土壤散布	1回
いんげんまめ		は種直後	500~900			
にんじん		は種後5~15日(発芽前)	500~600		全面土壤散布	1回
ごぼう		は種直後	300~600			
キャベツ		200~500	株間土壤散布		1回	
だいす		定植後 但し収穫60日前まで				150~300
あづき		は種後発芽前	200~300		全面土壤散布	1回
レタス 非結球レタス		は種直後	300~500			
アスパラガス(苗床)		定植活着後 但し収穫60日前まで	200~300		株間土壤散布	1回
アスパラガス(定植畑)		は種直後	200~300			
そらまめ		培土後雑草発生前 但し収穫30日前まで	250~300		全面土壤散布	1回
未成熟そらまめ		中耕培土後 但し収穫90日前まで	200			
てんさい		中耕培土後 但し収穫60日前まで	200		株間土壤散布	1回
麦類		は種直後	200~300			
チューリップ		は種直後または2~3葉期	100~150		全面散布	2回以内
日本芝 (こうらいしば、 ひめこうらいしば)		植付後	300			
		雑草発生前~発生始期 (秋期~春期)	400~600	200~300		

## △ 効果・薬害等の注意

### ◆一般的注意事項(共通)

- 高温時には除草効果が十分得られないので、気温が20°C以下の時期に使用してください。
- 成長した雑草に対しては、ほとんど効果が認められないので、は種または植付直後、中耕 施肥直後などの雑草発芽前後、または稚幼期に土壤散布してください。
- 洪積土壌では薬害が出にくいですが、沖積土壌では作物に影響を与えやすいので、使用にあたっては土質に十分注意してください。なお、砂質土壌では使用をさせてください。
- 散布後、中耕・培土・土入れなどにより土壤上層を移すと、雑草の種子が下部より出て発芽し、効果が低下することがあるので注意してください。
- 過乾の場合は効果が顕著でなく、逆に過湿の場合は薬害が生じやすいので、できるだけ 雨天を避け散布してください。雨天の場合は、降雨後、土壤水分が適湿の状態となってから 敷設してください。散布後 激しい降雨が予想される場合は、薬害が生じるので使用をさせてください。
- 必ず2~3cmの厚さに覆土を施し、よく碎土し鎮圧してから散布してください。堆肥のみの 覆土の場合は使用しないでください。
- 広葉作物の除草には、薬液が作物の茎葉にかかるないように圧力を下げて散布してください。
- 著しく低温の場合は製品中に一部原体が結晶析出することがあります。この場合でも 溶かせば効果に変わりはありません。ビンのままぬるま湯に浸して十分溶かした後、よく 振ってからご使用ください。
- 自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、 敷設液がかかるないように注意してください。
- 使用した器具類は、使用後できるだけ早く水または石けん水で洗っておき、他の用途に 使用する場合、薬害の原因にならないように注意してください。
- 使用に当たっては土壤条件、気象状況ならびに発生する雑草の相違から効果および作物への影響も異なるので、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

本印刷物は2021年6月時点での知見に基づいて作成しています。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。 ● ラベルの記載以外には使用しないでください。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

### ◆作物別注意事項

#### ●にんじんに使用する場合

- アカザ・キク科雑草の優占する圃場では効果が劣るので、有効な薬剤との組み合わせで 防除してください。
- 低温時に高薬量で使用すると薬害を生じるので、冬播き、春播きおよび晩春播き栽培 では「薬量300mℓ/10a」で使用してください。

#### ●ごぼうに使用する場合

- べたかけおよびマルチ栽培では薬害が生じるので、使用しないでください。
- 低温時に高薬量で使用すると薬害を生じるので、春播き栽培では薬量「200~300mℓ/10a」、 晩春播きで栽培では薬量「200~400mℓ/10a」で使用してください。

#### ●レタスに使用する場合

- 特に処理時の温度に影響されるので、適用対象地帯は東日本ならびに山間高冷地です。

#### ●麦に使用する場合

- 催芽まきの場合は、散布しないでください。
- 晩播で越冬まで5葉に達する見込みのない場合は、散布しないでください。

## △ 安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は 直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。使用後は洗眼してください。
- 皮膚に対して刺激性があるので、散布の際は、手袋、長ズボン・長袖の作業衣を着用し、 薬剤が皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんで よく洗い落してください。
- かぶれやすい体质の人は取扱いに十分注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかかるないようにしてください。
- 公園等で使用する場合は、散布中および散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に 関係のない者が散布区域に立ち入らないよう繩囲いや立て札を立てるなど配慮し、 人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 危険物第4類第2石油類に属しますので、火気には十分注意してください。



石原バイオサイエンス株式会社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番2号



ホームページの  
製品情報へ